

(1) 企画・管理担当

企画・管理担当は、予算執行等の管理的業務とともに、調査研究に関する総合調整及び評価、衛生及び環境教育の技術指導に関する企画・調整、衛生及び環境情報の収集及び解析、研修指導及び精度管理に関する企画・調整、衛生及び環境に係る広報等を主な業務としている。

ア 調査研究の調整及び評価**(ア) 内部評価委員会**

センターで実施する調査研究課題について、本庁関係課・室及びセンター職員で構成する内部評価委員会において、事前評価、中間評価、事後評価、追跡評価を実施する。また、試験検査業務の業務評価を行う。

(イ) 外部評価委員会

内部評価委員会で選定された調査研究課題について、有識者で構成する外部評価委員会で評価を行う。

(ウ) 調査研究報告会

年度内の調査研究結果の報告会を行う。

イ 環境・衛生教育

県内の小学校等を対象に、実習や施設見学を通して環境や衛生の大切さを学ぶ体験学習を行っている。

また、各種団体からの依頼による体験学習や研修の受け入れも行っている。

ウ 情報の整備

所内LANを構築し、同時に複数のクライアントからサーバ上のデータを利用することができるようになり、業務の効率化が図られている。

関係担当において、これまでに次のシステムを開発し、これらのシステムの改良やデータの更新等の運用・管理が行われている。

- ①温泉情報データベース
- ②公共用水域水質測定管理
- ③地下水水質測定管理
- ④大気常時測定結果管理
- ⑤酸性雨測定結果管理

⑥備品管理**⑦公用車予約管理****⑧会議室・分析機器の予約管理****エ 広報**

広報誌「衛生環境研究センターだより」はトピックスとして「溶連菌感染症について」及び「食物アレルギーについて」、調査研究の紹介として「エックス線を利用した水の分析法の研究」及び「PM2.5は、何からできてどこから来ているの？」などの内容を掲載しており、県内各保健所、市町村等関係機関に配布した。

当センターホームページでは、施設や業務の紹介、感染症情報等について情報提供している。また、大分県気候変動適応センターのホームページにおいては、県内の気温や降水量等に関する将来予測情報の他、気候変動適応策に関する情報や各種取組結果等を公表している。

大分県衛生環境研究センター

<https://www.pref.oita.jp/site/13002/>

大分県気候変動適応センター

<https://occac.jp/>

(2) 化学担当

化学担当は、食品衛生法、食品表示法、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性に関する法律、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律などに基づく行政検査や依頼検査のほか、それぞれの分野に関連した調査研究、研修指導等を主たる業務としている。

これらの業務の概要は、次のとおりである。

ア 食品衛生に関する業務

(ア) 行政検査

食品衛生法に基づき食品・生活衛生課が策定した大分県食品衛生監視指導計画により、県特産食品、県内広域に流通する食品、輸入食品を重点に、以下の項目について、県下5ブロックの食品衛生監視機動班が収去・搬入した食品及び食中毒、違反・苦情食品の検査を行う。

a 残留農薬

県産あるいは輸入野菜・果物等に残留する農薬の検査を30検体で行った。また、一斉試験法の測定項目の拡大を随時検討し、現在では314項目440成分（GC281成分、LC159成分、一部重複あり）が測定可能である。

b 動物用医薬品（合成抗菌剤、抗生物質等）

市販されている食肉、鶏卵、養殖魚介類等に残留する合成抗菌剤及び抗生物質等の検査を50検体で行った。現在では91項目115成分が測定可能である。

c 食品添加物

市販されている県産の漬物等について、合成保存料（ソルビン酸、安息香酸等）や漂白剤、甘味料の検査を30検体で行った。

d 特定原材料（アレルギー物質）検査

アレルギー物質7品目（乳、卵、小麦、そば、落花生、えび、かに）を使用している場合は、その旨を表示する義務がある。流通している食品で使用表示のない20検体について検査を行った。

e ヒスタミン検査

市販されている県産水産物加工品について、ヒスタミンの検査を10検体で行った。

イ 家庭用品に関する業務

薬務室の行政検査として、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づき、市販の乳幼児

用衣類おむつ、下着等を使用されているホルムアルデヒド及びアゾ化合物の残留量検査を20検体について行った。

ウ 薬事に関する業務

GMP（医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準）調査要領に基づき、組織や品質マニュアル等を整備し公的認定検査機関として、平成25年3月25日認定を受けた。

エ 食品衛生検査施設における検査等の業務管理

（GLP：Good Laboratory Practice）

内部点検標準作業書（SOP：Standard Operating Procedure）に基づき、信頼性確保部門責任者による内部点検を実施している。

(ア) 外部精度管理

食品衛生外部精度管理事業として、食品薬品安全センター秦野研究所が実施している外部精度管理に参加し、食品添加物（ソルビン酸）、動物用医薬品（スルファジミジン）及び農薬3成分（クロルピリホス、アトラジン、フルトラニル）について精度管理を実施している。

(イ) 妥当性評価

平成22年12月24日、厚生労働省部長通知を受け、以下食品について終了している。

・動物用医薬品

牛の筋肉、豚の筋肉、鶏の筋肉、鶏の卵、すずき目魚類、さけ目魚類、甲殻類、その他の魚類（かれい目）

・残留農薬

きゅうり、トマト、日本なし、かんしょ、だいこんの根、ねぎ、ピーマン、その他のかんきつ類（かぼす）

オ 調査研究

・シークエンス等を活用した自然毒関連植物分析法の検討

表1 令和6年度業務実績（化学担当）

項 目 \ 区 分		検 体 数	成 分 数
総 件 数		810	27,717
◎行 政 検 査			
食 品 衛 生	残留農薬	30	13,200
	動物用医薬品	50	5,750
	食品添加物	30	190
	アレルギー物質	20	40
	ヒスタミン	10	10
	食中毒		
	違反・苦情食品		
	スクリーニング		
	計	140	19,190
薬事衛生			
家庭用品		20	145
小 計		160	19,335
◎依頼検査			
食 品 衛 生			
小 計		0	0
◎調 査 研 究			
残留農薬・動物性医薬品			
遺伝子検査			
危機管理対策		113	232
食品添加物		203	1,015
家庭用品			
小 計		316	1,247
◎精度管理・妥当性評価		334	7,135
小 計		334	7,135

(3) 微生物担当

微生物担当の業務は、細菌、ウイルス、リケッチアおよび血清免疫学等に関する各分野の行政検査、委託業務検査、依頼検査、調査研究ならびに検査技術の研修・指導などである。

行政検査では、感染症、食中毒、収去食品等の検査、海水浴場等の水質検査、公衆浴場水等のレジオネラ属菌検査、特定性感染症（クラミジア、エイズ等）の検査および保健所からの依頼による検査を行っている。

委託業務検査では、厚生労働省の感染症流行予測事業、大分市（中核市）との委託契約に基づく食品等の微生物学的検査および検疫所との委託契約に基づく検疫感染症検査を行っている。

依頼検査では、飲用温泉水の細菌検査（一般細菌数、大腸菌群）等を行っている。

調査研究では、感染症・食中毒の動態及び疫学に関する研究や新しい検査方法の開発・導入に関する研究等に取り組んでおり、その一部は国や他の地方衛生研究所等との共同研究（分担研究、研究協力を含む）である。

研修・指導業務では、「大分県衛生環境研究センター研修生取扱要綱」に基づき主に保健所の検査担当者を対象とした検査実技等の研修を行うとともに、「大分県試験検査精度管理事業実施要綱」に基づき微生物部門の精度管理を実施している。

このほか、県健康政策・感染症対策課内に設置されている大分県感染症情報センターに対して、感染症情報の収集・解析・還元等の業務支援を行っている。

ア 感染症

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき実施している大分県感染症発生動向調査事業における全数把握疾病について、2024年は、結核117人、A型肝炎1人、腸管出血性大腸菌感染症35人、重症熱性血小板減少症候群10人、つつが虫病10人、日本紅斑熱14人、レジオネラ症21人、アメーバ赤痢5人、ウイルス性肝炎（A型肝炎及びE型肝炎を除く）1人、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症26人、急性脳炎3人、クロイツフェルト・ヤコブ病1人、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7人、後天性免疫不全症候群9人、侵襲性インフルエンザ菌感染症2人、侵襲性髄膜炎菌感染

症1人、侵襲性肺炎球菌感染症14人、水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）4人、梅毒93人、播種性クリプトコックス症5人、破傷風2人、バンコマイシン耐性腸球菌感染症20人、百日咳3人の報告があった。

腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症35人の原因菌の血清型（ベロ毒素型）は、O157（VT2）が15人、O157（VT1・2）が10人、O26（VT1）が3人、O111（VT1）が2人、O26（VT1・2）、O26（VT2）、O91（VT1・2）、O146（VT2）、血清型不明（VT2）が各1人であった。O157（VT1・2）については食中毒事例が1件あり、他は家庭内感染または散発事例であった。

当所では同調査事業の一環として、検査定点で採取した臨床検体からの原因微生物検索を行っている。細菌関係は溶血性レンサ球菌感染症及び感染性胃腸炎の検体を検査した。2024年は、溶血性レンサ球菌感染症では52検体を検査し、43検体（83%）からA群溶血性レンサ球菌を分離した。そのT型別の内訳は、T-1型23株、T-4型9株、T-12型4株、T-B3264型4株、T-28型1株、T型別不能が2株であった。細菌性感染性胃腸炎では、85検体を検査し、56検体（66%）から下痢症起因細菌を検出した。その内訳はサルモネラ属菌が53株と多く、次いでEHECが2株、EAggECが1株であった。ウイルス関係は、インフルエンザ様疾患、手足口病等の患者材料（咽頭拭い液、糞便等）20検体を検査し、13検体（65%）から7種14件のウイルスを検出した。検出されたのは、コクサッキーウイルスA6型が5件、インフルエンザウイルスBが3件、インフルエンザウイルスAH1pdmが2件、コクサッキーウイルスA16型、コクサッキーウイルスB3型、インフルエンザウイルスH3、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）が各1件であった。

麻しん及び風しんは、排除状態の達成と維持のため、県通知に基づき、感染が強く疑われる患者全員の麻しん及び風しんウイルスのPCR検査を実施している。2024年は2名4検体の検査を実施したが、両ウイルスとも検出されなかった。

SFTSは、全国的にも患者発生が増加傾向にあり、感染が強く疑われる患者のSFTSウイルスのPCR検査を実施している。2024年は18名18検体（8名8検体は大分市からの依頼）の検査を実施し、9名9検体から検出された。

イ 食中毒

2024年に微生物による食中毒が疑われた検査は17事例（他自治体からの依頼も含む）で、昨年より増加した。この内、細菌・寄生虫関係では14事例を検査し、5事例から*Kudoa septe mpunctata* 遺伝子、1事例からカンピロバクターを検出した。ウイルス関係では7事例を検査し、4事例からノロウイルスGII、1事例からノロウイルスGIを検出した。保健所等の疫学調査の結果、6事例が微生物を原因とする食中毒事件（他県事例を除く）と断定された。

ウ 感染症流行予測事業

厚生労働省の感染症流行予測事業に基づき、県産豚の血液を対象に日本脳炎の感染源調査を行ったところ、6月19日に最初のHI抗体保有豚が確認された。また、日本脳炎汚染地区の判定基準であるHI抗体保有率50%以上となったのは7月3日であった。

エ インフルエンザ

2024年の年間定点当たりの報告数は、548.90人（実報告数31,836人）で、2023年の661.34人（実数38,358人）より増加した。2023/2024シーズンは、第38週から報告が増加し始め、第47週には警報基準値を超え（34.76）、第50週にはピーク（55.17）を迎えて4年ぶりの大流行となった。2024/2025シーズンは、第48週から報告が急激に増加し始めた。第50週には警報基準値を超え、第51週には現行方式の調査が始まった1999年以降の最多を更新し、第52週にピーク（104.84）を迎え、2023年に続き大流行となった。

病原体サーベイランスにおいては、2023/2024シーズンに提出された検体からはB型インフルエンザウイルスが多く検出され、2024/2025シーズンに提出された検体からはA型インフルエンザウイルス（H1）とB型インフルエンザウイルスが検出された。

オ 食品検査

2024年度に大分県食品衛生監視機動班等が収去した食品85検体について、食中毒起因菌及び抗生物質等を検査した。国産食肉では、20検体中、病原性大腸菌が2件、サルモネラ属菌が2件、黄色ブドウ球菌が1件検出された（重複あり）が、カンピロバクターと抗生物質は不検出であった。輸入食肉10検体

について抗生物質は不検出であった。加工食肉（ミンチ・成型肉）では、10検体中、黄色ブドウ球菌が6件、サルモネラ属菌が1件検出された（重複あり）。加熱食肉製品（加熱後包装）10検体は規格基準の項目について検査を行い、E. coliの基準違反が2検体確認された。県産鶏卵10検体についてサルモネラ属菌と抗生物質、県産養殖魚介類10検体について抗生物質の検査を行い、全て不検出であった。県産清涼飲料水10検体の検査では、大腸菌群は全て不検出であった。そのうちミネラルウォーター7検体について、原水の基準である100/mLを超える一般細菌数が1検体から検出された。二枚貝5検体からはノロウイルス遺伝子は検出されなかった。そのうち生食用カキ3検体について成分規格違反はなかった。

カ 水の検査

2022年度から水質汚濁防止法等に基づく公共用水域の河川等の環境水調査の大腸菌の項目が外部委託となったため、その分の検査はなくなったが、海水浴場水の糞便性大腸菌群数（36検体）とEHEC O157（9検体）の検査、鳥インフルエンザで処分された鶏の埋却地周辺の河川水（4検体）の大腸菌数等の検査を行った。

公衆浴場水は、30施設の58検体（浴槽水30検体と湯口水28検体）について、微生物検査を実施し、58検体中26検体（45%）からレジオネラ属菌が検出された。内訳は「掛け流し施設」では浴槽水10検体中5検体（50%）、湯口水10検体中5検体（50%）で、「循環式施設」では浴槽水19検体中7検体（37%）、湯口水17検体中9検体（53%）、「非循環式施設」では浴槽水1検体中0検体（0%）、湯口水1検体中0検体（0%）であった。

キ 血清学的検査等

（ア）リケッチアに対する抗体検査

2024年度は、日本紅斑熱を疑う患者（大分市含む）のペア血清12件24検体について抗-日本紅斑熱リケッチア抗体（IgG、IgM）を検査し、9件が陽性であった。また、患者皮膚のマダニ刺口部痂皮8件（検体）について日本紅斑熱リケッチア遺伝子を検査し、2件が陽性であった。

（イ）HIV抗体等の検査

「大分県HIV抗体検査実施要領」に基づくHIV抗体の確定検査等（大分市含む）は2件実施したが、

陽性は0件であった。また、「福祉保健部及び生活環境部医療従事者等職員のB型肝炎感染防止対策実施要綱」による保健所職員等のHBs抗原・抗体について、各89検体計178成分の検査を実施した。2007年度から大分県特定感染症検査事業としてクラミジアとC型肝炎ウイルス（HCV）の検査を実施しているが、2024年度はクラミジアPCR検査を154件実施し陽性5件、HCV検査は1件実施し、陽性0件であった。

ク 調査研究

新型コロナウイルスの全ゲノム解析や腸管出血性大腸菌や薬剤耐性菌の分子疫学的調査、浴場水の大腸菌検査法、ウイルスや寄生虫の検査法の検討等に取り組んだ。

ケ 研修指導

保健所検査室等の検査担当者を対象に、検査業務に関する精度管理（赤痢菌）を実施した。

表2 令和6年度業務実績（微生物担当）

項 目 \ 区 分	検 体 数	成 分 数
総 件 数	3,251	10,016
◎行政検査		
（病原体分離・同定・検出）		
感染症	1,308	3,500
食中毒	170	501
食品	94	278
水質検査	107	509
その他	0	0
（血清検査）		
エイズ	1	4
B型肝炎	170	170
その他（C型肝炎等）	0	0
小 計	1,850	4,962
◎委託業務検査		
感染症流行予測調査	140	210
食中毒・食品・血清等（大分市）	35	82
小 計	175	292
◎依頼検査		
（病原体分離・同定・検出）		
飲用水	1	3
（血清検査）		
つつが虫病	0	0
小 計	1	3
◎調査研究		
共同研究	210	395
感染症疫学調査研究	880	3,900
食中毒病原体調査研究	89	113
検査法開発導入調査研究	12	192
小 計	1,191	4,600
◎精度管理	34	159
小 計	34	159

(4) 大気・特定化学物質担当

大気・特定化学物質担当は、大気汚染や特定化学物質の環境保全対策に資するため、法律等に基づく行政検査、委託検査業務及び調査研究業務を主たる業務としている。

ア 行政検査

(ア) 大気汚染の常時監視

大気汚染防止法に基づき、昭和46年度からテレメータシステムで監視を行っている。令和6年度は、大気汚染状況の常時監視を県内10か所においてオンラインシステムで二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、微小粒子状物質（PM2.5）及び風向・風速を測定している。

平成27年10月からは2地点で微小粒子状物質の成分分析を開始している。

(イ) 交通環境・一般環境の大気測定調査

常時監視測定局が設置されていない道路沿道などの地域の大气汚染物質濃度（二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、光化学オキシダント）の実態を把握するため調査を行った。

(ウ) 有害大気汚染物質調査

大気汚染防止法に基づき、平成9年度から一般環境等における揮発性有機化合物（VOC）等の有害大気汚染物質についてモニタリング調査を行っている。令和6年度は、行政検査により5市の一般環境等において調査を行った。

(エ) 浮遊粉じん調査

浮遊粉じんによる大気の汚染状況を把握するため、令和6年度は、行政検査により重金属成分等の調査を1市の固定発生源周辺で調査を行った。

(オ) 石綿粉じん調査

石綿粉じんによる大気の汚染状況を把握するため、令和6年度は、行政検査により2か所の建築物解体等工事現場周辺で調査を行った。

イ 委託検査業務

(ア) 環境放射能調査

放射能のバックグラウンドを測定し、環境放射能の水準を把握するため、文部科学省（現在は原子力規

制庁）の委託を受け、昭和62年度から調査を行っている。令和6年度も引き続き、定時降水中のβ線や、県内5か所でモニタリングポストにより空間放射線量率の測定を行うとともに、大気浮遊じん、降下物、土壌、野菜、牛乳等のγ線を測定し、環境中に存在する放射性核種の調査を行った。

(イ) 化学物質環境実態調査

平成25年度から環境省の委託を受けて、環境リスクが懸念される化学物質の大気環境中の量を調査している。その結果は、「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の「指定化学物質」及びそれ以外の化学物質に係る施策の基礎資料等として利用されている。

ウ 精度管理

令和6年度は酸性雨測定（全環研）に関する分析機関間比較調査、原子力規制庁委託環境放射能水準調査に関する精度管理、国際原子力機関（IAEA）の海水の放射能分析及び揮発性有機化合物に関する環境測定分析統一精度管理調査（環境省）についての精度管理事業に参加した。

エ 調査研究

(ア) 酸性雨調査

平成3年度から全国環境研協議会の酸性雨全国調査に参加している。

また、県内における酸性雨の実態と推移の把握を目的として、大分市において昭和60年度から継続的に調査を行っている。

(イ) PM2.5の発生由来等の調査

大分県では、常時監視測定局でPM2.5濃度を測定しているが、平成27年10月から成分分析を行い、発生源を推定するための研究を行っている。平成30年からは、ケイ素およびレボグルコサンを新たな指標成分として加え、分析を行っている。

(ウ) 国立環境研究所等とのⅡ型共同研究

令和6年度は、「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」に参加した。

表3 令和6年度業務実績（大気・特定化学物質担当）

項 目	区 分	検 体 数	成 分 数
総 件 数		1,782	41,402
◎行政検査			
大気汚染常時監視		120	25,318
PM2.5成分分析調査		224	5,264
交通環境・一般環境調査		5	916
有害大気汚染物質調査		216	876
浮遊粉じん調査		12	60
石綿粉じん調査		4	4
その他		12	48
小 計		593	32,486
◎委託業務検査			
環境放射能調査（原子力規制庁）		165	251
環境化学物質調査（環境省）		3	15
小 計		168	266
◎依頼検査			
小 計		0	0
◎調査研究			
酸性雨調査		1,010	8,590
その他		0	0
小 計		1,010	8,590
◎精度管理			
酸性雨調査		2	20
放射能調査		8	32
環境省統一精度管理		1	8
小 計		11	60

(5) 水質担当

水質担当は、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、温泉法に基づく行政検査、委託業務検査、依頼検査並びに調査研究を主たる業務としている。

ア 行政検査

(ア) 測定計画による調査（公共用水域及び地下水の水質調査）

公共用水域の水質測定は、昭和46年度から水質汚濁防止法に定める測定計画に基づいて実施している。令和6年度は、県担当分の39河川58地点、2湖沼5地点において生活環境項目（9項目）、健康項目（26項目）、要監視項目（25項目）、水生生物保全項目（3項目）、特定項目（1項目）、特殊項目（2項目）及びその他項目（9項目）について年1～12回の測定を行った。

また、地下水の水質測定は、測定計画に基づき県担当分の52井戸において環境基準項目（27項目）、要監視項目（24項目）及びその他項目（7項目）について年1～2回の測定を行った。

(イ) 海水浴場水質調査

県下の主要海水浴場（年間利用者数が、おおむね1万人以上）の水質の現況を把握するとともに、その結果を公表して住民の利用に資することを目的として、昭和47年度から実施している。

令和6年度は、6か所について、遊泳期間前2回、遊泳期間中1回調査を実施した。

(ウ) 工場・事業場排水監視調査

水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく規制対象工場・事業場の排水監視のため、水質測定を行っている。

令和6年度は、生活環境項目、健康項目等について、207検体、1,166成分の水質測定を行った。

(エ) 廃棄物処理施設等維持管理状況等調査

廃棄物及び清掃に関する法律に基づき県が指導・監督を行っている産業廃棄物処分場等の維持管理指導のため、水質測定を行っている。

令和6年度は、金属等の有害物質を中心に排出される放流水、浸透水及び地下水等について、108検体、2,030成分の水質測定を行った。

(オ) 温泉資源監視基礎調査

平成13年度から、温泉資源の現状を把握し、実施してきた保護対策の効果を見守るために県が実施している温泉資源監視基礎調査事業に基づき、実施している。

令和6年度は、温泉資源を保護するために指定した保護地域等において34点（大分市、別府市、日田市、竹田市、由布市、九重町）の泉源において、年1～2回、泉温、遊離二酸化炭素等の現地試験や試験室において密度、ナトリウム等の化学成分の試験を35検体、延べ1,867成分にわたり行った。

(カ) その他

測定計画外の公共用水域・地下水の水質調査等の分析を26検体、延べ158成分実施した。

イ 委託業務検査

(ア) 瀬戸内海広域総合調査

瀬戸内海全域にわたって、ほぼ同時期に調査を行い瀬戸内海の水質状況を的確に把握するための調査で、環境省の委託を受け、昭和47年度から調査を行っている。

令和6年度は、春季、夏季、秋季、冬季の年4回、8地点の表層水、底層水を現地船上において採水、水温等の測定、試験室において生活環境項目、クロロフィル a、栄養塩類等を延べ64検体、1,376成分の検査を行った。

(イ) 化学物質環境実態調査

環境リスクが懸念される化学物質について、特定化学物質の環境中への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律の指定化学物質の指定、その他化学物質による環境リスクに係る施策について検討する際の暴露の可能性について判断するための基礎資料等とするための調査で環境省の委託を受け、平成2年度から調査を行っている。

令和6年度は、11月に大分川河口域の船上で採水、採泥及び水温の現場測定等を行った。また、水中の化学的酸素要求量等の一般項目や底泥中の硫化物濃度の測定を行うとともに、9月には魚体の脂質重量等を測定し、計7検体79成分の測定を行った。

なお、化学物質の分析は、環境省委託分析機関で実施した。

ウ 依頼検査

(ア) 温泉分析

令和6年度は、一般からの依頼により2検体107成分の鉱泉分析試験（中分析試験）及び1検体7成分の飲用試験を行った。

エ 調査研究

(ア) 大分県沿岸域の海水温等に係る長期的なトレンドの解析に関する研究

大分県沿岸域における海水温の観測データに対し、状態空間モデルを適用し、季節変動を除外した真の海水温の水準及びトレンドを推定した。

(イ) 国立環境研究所との共同研究

令和6年度は、「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」、「海域における気候変動と貧酸素水塊（DO）／有機物（COD）／栄養塩に係る物質循環との関係に関する研究」及び「連携プラットフォームを活用した環境流出プラスチックごみの発生抑制に資する研究」に参加した。

表4 令和6年度業務実績（水質担当）

区 分		検 体 数	成 分 数
項 目			
総 件 数		1,050	15,060
◎行政検査			
測定計画による調査		533	8,137
海水浴場調査		66	132
事業場監視調査		207	1,166
産業廃棄物処理施設等維持管理状況等調査		108	2,030
温泉分析	中分析試験	35	1,867
	うち飲用試験		
	可燃性ガス測定		
その他		26	158
小 計		975	13,490
◎委託業務検査			
瀬戸内海広域総合調査		64	1,376
化学物質環境実態調査		7	79
小 計		71	1,455
◎依頼検査			
温泉分析	中分析試験	2	107
	うち飲用試験	1	7
	可燃性ガス測定		
その他			
小 計		2	107
◎調査研究			
水環境保全・温泉に関する調査研究			
小 計		0	0
◎精度管理			
環境測定分析統一精度管理調査		2	8
その他			
小 計		2	8

8

研修状況

(1) 衛生環境研究センター主催による研修

研 修 名 等	研 修 等 の 概 要	期 間	参加者数	実 施 担 当
生成A I 業務活用研修	業務の効率化や働き方改革につなげるため、生成A I の活用を学ぶ	R6.6.17	21	企画・管理
わかりやすい資料の作り方研修	通常業務や県民への情報発信等に使用する資料を、相手方により分かりやすくするための手法を学ぶ	R6.9.24	18	企画・管理
大分県試験検査精度管理事業研修会	大分県及び大分市の保健所検査室、食肉衛生検査所、衛生環境研究センター微生物担当職員を対象にした微生物検査の研修	R6.11.21	19	微生物

(2) 研修生等の受入状況

研 修 名	所 属	研 修 者	期 間	参加者数	実施担当
HIV確認検査研修	大分市保健所	衛生課衛生検査担当班	R6.8.23	2	微生物
麻しん・風しん検査研修	大分市保健所	衛生課衛生検査担当班	R6.8.28	2	微生物
インターンシップ研修	大学	学生（薬学部、獣医学部）	R6.4.18 R6.8.19～23 R6.9.11 R7.2.10	2 1 1 2	企画・管理、化学、微生物、大気・特定化学物質、水質
SSH研究機関訪問研修	大分県立佐伯鶴城高校	1年生	R6.9.17	20	化学、微生物、大気・特定化学物質、水質
研究施設訪問研修	大分大学	留学生	R7.1.8	1	微生物
施設見学	大分県試験研究機関連携会議	職員	R7.3.4	10	企画・管理、化学、微生物、大気・特定化学物質、水質
業務視察	熊本県保健環境研究所	職員	R7.3.18	4	企画・管理、化学、微生物、水質
業務視察	佐賀県環境センター	職員	R6.4.24	2	水質

(3) 研修参加状況

研 修 内 容	参 加 先	参 加 職 員		期 間
		担 当	氏 名	
ゲルマニウム半導体検出器による測定法（初級・中級）	公益財団法人日本分析センター	大気・特定化学物質	村上 泰隆	R6.5.28～5.31
食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	三田共用会議所（東京都）	化学	森永 由加里	R6.6.13
衛生微生物技術協議会第44回研究会	タワーホール船堀（東京都）	微生物	佐々木 麻里 赤星 諒	R6.7.10～7.11
第15回FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザ（東京都）	化学	末永 稜典	R6.7.26
第31回2024年度瀬戸内海研究フォーラムin大阪	高槻城公園芸術文化劇場（高槻市）	水質	山瀬 敬治	R6.8.28
JASIS2024（日本分析・科学機器説明会）	幕張メッセ国際展示場（千葉市）	化学	上田 将伍	R6.9.4～9.6
第65回大気環境学会年会	慶應義塾大学日吉キャンパス	大気・特定化学物質	甲斐 太郎	R6.9.11～9.13
令和6年度研究員資質向上研修	大分県水産会館	企画・管理 化学 微生物 大気・特定化学物質 水質	関 寛朗 久保崎 範行 末永 稜典 上田 将伍 遠藤 智哉 河野 公亮 甲斐 太郎 安藤 大生 阿部 奈望 芝原 知弘 朝見 将太	R6.9.20

研 修 内 容	参 加 先	参 加 職 員		期 間
		担 当	氏 名	
第50回九州衛生環境技術協議会	ニューウェルシティ宮崎 (宮崎市)	化学 微生物 大気・特定 化学物質 水質	橋口 祥子 三宮 佳那子 高嶋 絵実 安藤 大生 松田 貴志 朝見 将太	R 6. 10. 3～10. 4
令和6年度地域保健総合推進事業 地域専門家会議（九州ブロック）	北九州市総合保健福祉セン ター（北九州市）	化学	長田 綾美	R 6. 10. 24
令和6年度光化学オキシダント自動 計測器の校正に係る研修	福岡県保健環境研究所 (大宰府市)	大気・特定 化学物質	河野 公亮	R 6. 10. 25
令和6年度河川マイクロプラスチック 調査研修	TKP新横浜カンファレンス センター（横浜市）	水質	朝見 将太	R 6. 10. 31
令和6年度大気常時監視技術講習会	公益社団法人 日本環境技 術協会	大気・特定 化学物質	河野 公亮	R 6. 11. 1～11. 2
ゲルマニウム半導体検出器による測 定法（上級）	公益財団法人日本分析セン ター	大気・特定 化学物質	村上 泰隆	R 6. 11. 6～11. 8
第120回食品衛生学会	中部大学春日井キャンパス (愛知県)	化学	橋口 祥子	R 6. 11. 7～11. 8
令和6年度地域保健総合事業 地域 レファレンス会議	北九州市総合保健福祉セン ター（北九州市）	微生物	赤星 諒	R 6. 11. 8
第47回農薬残留分析研究会	徳島グランヴィリオホテル (徳島市)	化学	森永 由加里	R 6. 11. 11～11. 12
第51回環境保全・公害防止研究発表 会	奈良県社会福祉総合セン ター（橿原市）	大気・特定 化学物質 水質	甲斐 太郎 松田 貴志	R 6. 11. 14～11. 15
第26回腸管出血性大腸菌研究会 第17回日本カンピロバクター研究会	文部科学省研究交流セン ター（茨城県つくば市）	微生物	佐々木 麻里	R 6. 11. 18～11. 19
第61回全国衛生化学技術協議会	フェニーチェ堺（堺市）	化学	高畑 裕 上田 将伍	R 6. 11. 20～11. 22
全ゲノム解析技術研鑽会	福岡県保健環境研究所 (大宰府市)	微生物	佐々木 麻里	R 6. 12. 10～10. 13
令和6年度 気候変動適応の研究會 及び地域の気候変動適応推進に向けた 意見交換会	航空会館ビジネスフォーラ ム（東京都）	企画・管理	久保崎 範行	R 6. 12. 17～12. 18
令和6年度研究員資質向上研修・若 手研究員研修	大分県産業科学技術セン ター	水質	山瀬 敬治 芝原 知弘 朝見 将太	R 7. 1. 8
第1回職員の試験検査技術の啓発に 関する取組（理化学系現場の会）	AP東京八重洲（東京都）	化学	橋口 祥子	R 7. 1. 17
令和6年度指定薬物分析研修会議	国立医薬品食品衛生研究所 (川崎市)	化学	高畑 裕	R 7. 1. 21
令和6年度大気分析研修（Bコー ス）	環境調査研修所	大気・特定 化学物質	村上 泰隆	R 7. 2. 3～2. 7
地方衛生研究所全国協議会衛生理化 学分野研修会	Web開催（地方衛生研究所 全国協議会）	化学	森永 由加里 橋口 祥子 高畑 裕 末永 稜典 上田 将伍	R 7. 2. 13
令和6年度九州ブロック模擬訓練事 業結果検討会	北九州市立商工貿易会館 (北九州市)	化学	高畑 裕	R 7. 2. 20
第38回公衆衛生情報研究協議会総 会・研究会	富山県民会館（富山県）	企画・管理 微生物	久保崎 範行 佐藤 藍 佐々木 麻里 長田 綾美	R 7. 2. 26～2. 27
PFAS分析に係る視察	福岡県保健環境研究所 (大宰府市)	水質	山瀬 敬治 芝原 知弘	R 7. 2. 26～2. 28
大気粉じん中のクロムの形態別測定 方法（六価クロム）の習得	福岡県保健環境研究所 (大宰府市)	大気・特定 化学物質	河野 公亮	R 7. 3. 6
大分大学グローバル感染症研究セン ター講演会（SFTS）	ホルトホール大分（大分 市）	微生物	佐々木 麻里	R 7. 3. 8
ウイルスバンク事業に係る技術研修 会	福岡県保健環境研究所 (大宰府市)	微生物	高嶋 絵実	R 7. 3. 13～3. 14